

CFT ニュース&息抜き（10月）

全日本コーヒー公正取引協議会に寄せられた問い合わせなどを基に、トピック形式で毎月リリースする予定です。参考になれば幸いです。

1. 9月の問合せの傾向

- (1) レギュラーコーヒーにはコーヒー生産国名欄があり、ブラジルやエチオピアと記載されているが、本当に把握し記載しているのか。どのようにして把握するのか。

⇒ 通常、コーヒーは60キログラム入りの麻袋に入れて輸出され、その袋には日本政府も加盟する国際コーヒー機関（ICO）の国別コード番号が記載されています。

麻袋に、例えば、002/123/456 とあれば、002 は国名、123 は輸出業者名、456 は輸出業者のロット番号と理解できます。002 はブラジルを示しています。モカで有名なエチオピアは 010、ブルーマウンテンで有名なジャマイカは 100、コロンビアは 003 です。

コーヒーは通常コーヒー生産国の明らかな飲物で、「輸入」とだけ記載されているコーヒーはCFT子には理解できないコーヒーです。

- (2) 地場振興のため大豆を焙煎し、大豆コーヒーとして販売したい。NHKが柿の種コーヒーを紹介していたとも聞くので、大豆を原料としたコーヒーを考えた。

⇒ レギュラーコーヒーはアカネ科のコーヒーノキの果実の種を焙煎・粉砕し提供されます。大豆を焙煎しコーヒーと称することはお止めください。アナゴを使って「ウナギのかば焼き」と称するようなものです。

日本政府が加盟する国際コーヒー機関の協定第27条には「コーヒーでないものをコーヒーと称することを避ける」よう求めています。外務省のホームページには「開発途上のコーヒー生産国の経済発展に協力すること」とあり、先進国の一員でSDGsを謳う日本が大豆を焙煎しコーヒーと称することは避けるべきです。

近年、日本へコーヒー輸出を伸ばしているラオスの農民はコーヒー栽培以後、子供を学校に行かせ、かつ年に半年弱しか食べられなかった

米が年間を通じて食べられるようになった、と聞いています。コーヒー飲用は途上国のコーヒー生産者の生活を助けているということです。

(3) ブレンドコーヒーで1割しか当該豆が使用されない製品は法律違反か！

⇒ 全日本コーヒー公正取引協議会加盟会員はコーヒー公正競争規約に従い、モカブレンドやブルーマウンテンブレンドなどと称する場合、当該国の特定産地のコーヒー豆を3割以上使用することとしています。

お問い合わせのコナブレンドはハワイのコナコーヒーが1割しか使われていないとのことですが、法律違反ではありません。欧米は1割使用でブレンドと称することができますが、米国やEUでは3割に引き上げる動きもあると聞いています。

なお、全日本コーヒー公正取引協議会加盟会員は製品にコーヒー公正マークを付しており、マークを確認しご購入いただければ幸いです。(ホームページにマークがあります。)

2. コーヒーの焙煎

ルネサンスの代表的な芸術家ミケランジェロは、「大理石に埋まっているものを掘り出す」と言って、ダビテ像やピエタ像を彫り出している。常人とは全く異なる感覚だ。

コーヒーの焙煎者も似たところがあるのでないか。コーヒー生豆の持つ力・味などを引き出す行為が焙煎である。どのような味わいのコーヒーになるかは焙煎者の焙煎手法に支配される。ミケランジェロ同様、コーヒー生豆の持つ香りや味を導き出すのが焙煎者の行為である。多分、同一のコーヒー生豆をAさん、Bさん、Cさんが各自焙煎すると全て味わいが異なり、素晴らしい味とポピュラーな味に分かれるのかもしれないし、全てが味わいの異なる上質のコーヒーとして誕生するのかもしれない。

CFT子はコーヒーを飲むだけで、豆の見分け方も焙煎も知らないが、美味しさの違いはエクセレント、普通程度との見分けることはできると思っている。秋、コーヒーの美味しい季節。

3. コーヒーの味の相談

昨年末頃から、「長年購入していたコーヒーの味が変わったのはなぜ」との趣旨の電話があるようになった。コーヒーの味わいの相談は正直困る。嗜好品であるコーヒーは飲用する方、それぞれで異なるので相談電話を受けても応えるの

に窮する時がある。

CFT 子の勝手な想定要因は以下でないかと思う。

- (1) 国際的なコンテナ不足で予定したコーヒーが輸入されず、他の味の似通ったコーヒーを使ってブレンドしたこと。
- (2) コーヒー生豆（焙煎前の豆（「なまめ」という。）：green bean）が日本の港に到着した時、国際的な商品価格高騰と円安の影響で輸入価格（CIF 価格）は、本年 1～8 月は前年同期の輸入価格を約 7 割上回っており、原料手当てが大変だったこと。

（注）CIF 価格とは、Cost Insurance and Freight のことで運賃及び保険料込みの価格のことです。

いずれにしても、販売価格の引上げが思うようにならない中で、味わいを保ってコーヒーを提供する事業者の努力は認めてください。